

非造影 MR 血管撮影/灌流画像による手関節リウマチにおける活動性滑膜炎の評価、治療効果判定に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年6月28日～2025年3月31日

〔研究課題〕

非造影 MR 血管撮影/灌流画像による手関節リウマチにおける活動性滑膜炎の評価、治療効果判定について

〔研究目的〕

これまで造影剤を使用した MRI で評価を行っていた早期の関節リウマチの診断、治療効果判定を造影剤を使用しないで、血液がどのように心拍とともに分布していくかの情報を得られる MRI 灌流画像で、どの程度代替可能かどうかを評価します。

〔研究意義〕

ガドリニウム MRI 造影剤は頻度は低ですが、副作用を生じます。ただし、早期の滑膜炎の炎症を診断するためにはこれまで造影 MRI を撮影することが一般的でした。関節リウマチでは、靭帯付着部周囲に滑膜炎や骨びらんを生じ、関節癒合による可動域障害、変形を生じることで、患者さんの予後や活動性に大きく影響します。早期の画像診断により適切に治療介入を行うことで後遺症のリスクを軽減することが可能です。これらのことから、造影剤投与を低減、もしくは使用せずに腎機能低下や造影剤アレルギーのある患者様にも適切な画像診断を可能とすることを最終目標としています。造影剤を使用しない MRI 撮影(非造影 MR 血管撮影/灌流画像)により適切な治療につなげてゆく方法を検討します。

〔対象・研究方法〕

手関節リウマチの診断にて2021年4月から2022年2月までに造影 MRI を撮影した患者さん30手関節炎に対して、造影される領域について、痛みのある部位や動きの評価、骨の異常の有無とともに、造影剤を使用しない MR 灌流画像での異常信号の有無、程度について放射線科読影専門医が判定を行い、どの程度相関性があるかを検討します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕

画像を含むすべての患者様の情報は個人が特定されないように情報を加工して取り扱われます。終了後、データは帝京大学臨床研究センターにて10年保管後廃棄します。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：医学部放射線科学講座 准教授 山本麻子

住所：板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表) [内線 7568]